

4. 「ヒートアイランド監視報告（平成 25 年）」のまとめ

各都市における長期変化傾向（統計開始から 2013 年までの統計による調査結果）

【都市の高温化】

各都市では、都市化による気温の長期的な上昇傾向がみられ、特に日最低気温で顕著である。気温の長期的な上昇は、日最高気温が冬季、日最低気温が秋季に最大となる都市が多い。各都市では、冬日の減少、熱帯夜や猛暑日、真夏日の増加が顕著に現れている。

【都市の乾燥化】

各都市では、都市化による相対湿度の長期的な減少傾向がみられる。相対湿度の減少は秋季、冬季に最大となる都市や、梅雨時期に最小となる都市が多い。各都市では、霧日数は著しく減少している。

【都市での降水量】

各都市では、大雨や短時間強雨の長期的な変化傾向は明瞭にみられない。

都市気候モデルによるシミュレーション結果

【2013 年 8 月】

2013 年 8 月の都市化の影響は、2009 年以降の 8 月の中で、最大もしくは最大クラスだった。太平洋高気圧に覆われて高温傾向となる夏ほど、都市化の影響によって、さらに高温となるリスクが高まる。

【2013 年の月別調査】

各月において、都市による高温化、乾燥化（相対湿度の減少）がみられた。都市化の影響は、冬季（特に 12 月、1 月）で大きく、梅雨時期（6 月）で小さい。